

自主防災組織活動について（構想）～「いざというとき、何をしたらいいのか？」という不安にこたえる

平成 29 年 4 月 9 日 自主防災部長 坂 本

1 活動の方針（開かれた活動を目指す）

- 部員だけの活動にしない（月に一度の例会を開放的なものにする）
- 毎月の活動に（町会の会員なら）誰でも参加できるようにする
- 子ども会や婦人部との連携を重視する
- 中期目標、年次目標を定め、達成状況を評価する
- 自主防災部員は、下戸塚地区の「防災リーダー」として町内会員の防災意識の高揚に努める
- 総会時に年間の活動内容（概要）を報告し、新年度の活動方針を告知する
- 毎月の活動（企画）については、回覧板でお知らせし、参加希望者を募る
- 次回も参加したくなるような活動を目指す

2 中期目標（5年後）として、次のことを目指す

- 自主防災部員の増員を目指す
- 避難所となることが想定される小、中、高校での「避難所運営訓練」を行う
- 上記の学校ごとに、災害時担当役員を配置する（役割分担について日頃から備える）
他町会との連携も必要
- 情報班（情報収集班）の編成と訓練

3 今年度の活動例（県や市の資源も活用する）

- 町内会の範囲（周囲）を歩いてみよう。ついでに地域（川口市、越谷市、草加市）や町内の地理的特徴を理解しよう（防災まち歩き）
- 避難所まで歩いてみよう（地震時、水害時）
- 防災マップをじっくり見てみよう（川口市のハザードマップ、過去の災害記録を調べる）
- 避難所に避難することを想定し、「これだけは当面欠かせない」と各自が思う物を持って集まってみる
- 負傷者の手当て法（止血等）、AED・心肺蘇生法、搬送訓練、市民トリアージ
- 「いつも防災」（埼玉県）
- クロスロードゲーム、DIG（災害図上訓練）、HUG（避難所運営ゲーム）
- 防災施設の見学（埼玉県防災学習センター等）
- 防災ワークショップ（夏祭りなどのイベントと関連させる）

4 部内組織

① 企画と記録担当

- ・市関係のしごと（連合町会、市の防災担当者、消防等との連絡調整）
- ・広報担当（町内会への事前広報）
- ・記録のしごと（活動報告を兼ねて記録の作成、事業報告を兼ねて広報誌を発行）
- ・子ども会、婦人部との連携のしごと

② 資機材担当（防災倉庫の資機材を使用しての訓練の充実、可搬ポンプの現実的な活用の仕方）

CERT（がれきの下からの救出訓練）

消防への要請等働きかけ

5 自主防災で備えたい資機材（将来的に）

プロジェクター、スクリーン（学習用）

トランシーバー（情報班用）